



奥松島縄文村講演会

貝塚が語る

縄文の魅力

— 学史の貝塚を読みとく —

2月1日(日)、奥松島縄文村講演会「貝塚が語る縄文の魅力 - 学史の貝塚を読みとく -」を開催しました。2025年の市制20周年と里浜貝塚国史跡指定30周年を記念したもので、日本の考古学研究の進展に大きく貢献した3つの貝塚(千葉県加曽利貝塚・愛知県吉胡貝塚・里浜貝塚)にスポットをあて、長年貝塚の調査研究に携わってきた3名の専門家をお招きし、その魅力を語っていただきました。会場には県内外から考古学ファン130名が集まり、熱心に聞き入っていました。

貝塚はおもしろい!

- 貝塚研究の歴史と
発掘調査からみえる縄文世界 -講演
1

水ノ江和同氏 (同志社大学教授)

貝塚の研究史や、日本考古学のはじまりである「大森貝塚」、今回取り上げる3つの貝塚について分かりやすくご紹介いただきました。特に里浜貝塚は、発掘調査の手法が確立した点に置いて、とても貴重な遺跡であることが解説されました。



縄文貝塚の

魅力発信拠点をつくる

講演
2

・加曽利貝塚

西野雅人氏 (千葉市埋蔵文化財調査センター)

加曽利貝塚は、2017年に「特別史跡」となった千葉県の貝塚で、日本最大級の集落型貝塚です。貝塚の重要性や研究史が語られたほか、加曽利貝塚で特筆すべきは「市民の保存活動によって国を動かし保存された遺跡」であること。現在でも、博物館とともに市民の手によって新プロジェクトが発足し、縄文の魅力発信を進めていることが語られました。

国営発掘第1号

多くのものがたりを生んだ

・吉胡貝塚

講演
3

増山禎之氏 (田原市博物館学芸員)

愛知県渥美半島は貝塚群が分布し、なかでも吉胡・保美・伊川津の3貝塚は、多数の人骨が発掘されたことで有名です。人骨を用いた研究が進められ、埋葬や抜歯風習といった縄文社会の復元の研究にも貢献してきた貝塚です。貝塚活用では「貝層洗い体験」での子ども達の大発見が紹介されました。

学史の遺跡に
子どもが集まる講演
4

・里浜貝塚

菅原弘樹 (奥松島縄文村歴史資料館)



日本で最初の「層位的発掘(層ごとに掘る)」が実施されたこと、里浜貝塚の調査によって明らかになった縄文人の四季の暮らしなど、里浜貝塚の調査の歴史を詳しく解説。さらに、「縄文グルメ体験」や「縄文の釣り」「塩作り」など、縄文時代から変わらない環境という「地の利」と「発掘調査」に基づいたイベント活用について紹介されました。

5
討論縄文貝塚の
魅力に迫る!

講演後の討論では、講師4名が縄文貝塚や里浜貝塚の魅力、貝塚の保存活用について語りました。「国史跡指定は、ゴールではなくスタート」という見解で一致。水ノ江氏は「里浜は特別史跡も目指せる遺跡!」と訴え、会場からも拍手が起こりました。それぞれの思う里浜の魅力については「とにかく立地に恵まれている。視覚・聴覚で縄文を感じられる遺跡はなかなかない。そこをアピールすべき」など、他遺跡の視点から里浜貝塚が語られ、里浜の魅力再発見の討論となりました。

INFO

文化財講演会のお知らせ 「ここまでわかった赤井官衙遺跡」

日時 3月15日(日) 13:30 ~ 15:00
(開場 12:30)

会場 赤井市民センター 多目的ホール

申込 申込不要・聴講無料

講師 佐藤敏幸氏
(東北学院大学博物館学芸員・同大非常勤講師)

次回の講演会は「赤井官衙遺跡」についてです。

最新の発掘調査成果を報告するとともに、赤井官衙遺跡の歴史的な意義とその魅力を講演します。